

環境をよくしたい人大集合 2021

活動報告

昨年の12月18日に上田中央公民館1階ホールで、うえだ環境市民会議が主催する「環境をよくしたい人大集合」が開催され、約50名が参加され、盛況でした。「環境をよくしたい人大集合」は、地域で活動する環境団体の横のつながりをつくろうと2013年から毎年実施しています。なお、2020年は新型コロナウイルスの拡大で実施できませんでした。

発表・展示のリストおよび内容を以下に記します。

| 発表・展示順 | 発表・展示団体名称 | 発表・展示者名 |
|--------|--------------------------|------------------------|
| 1 | 自然エネルギー上小ネット | 宇野 親治 |
| 2 | ヤマンバの会 | 村山 隆 |
| 3 | 上田地球を楽しむ会 | 林 一六 |
| 4 | 信州水環境マップ・ネットワーク | 沼田 清 |
| 5 | 氷風穴の里保存会 | 前田 重雄 |
| 6 | うえだ環境市民会議(SDGsプロジェクトチーム) | 新田 詔三 |
| 7 | うえだ環境市民会議(自然エネルギーシフトPT) | 新田 詔三 竹内 秀夫 村山 顕 |
| 8 | 長野大学市川ゼミ | 市川文彦研究室 ゼミ生 |
| 9 | 長野県発明研究会上田支部 | 荻原 静夫 |
| 10 | うえだ環境市民会議(ごみ減PT) | 大内 薫 |



2. ヤマンバの会 村山 隆

28年前、里山の本の老松枯死から開始。その切り株の「声」を聴き取る市民により、諸実践が展開しました。




3. 上田地球を楽しむ会 林 一六

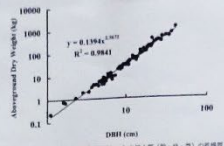
上田地域の自然文化を調べ、楽しんでます。今回は10年以上の調査データに基づき、1年間に成長する木の量を推計し、その量以下の持続可能な木質バイオマス利用と熱エネルギーを電気エネルギーに変換するゼーバック発電について発表・展示しました。

伊勢山コナラ林の成長(2011年から2021年)

上田地球を楽しむ会



幹の直径 (cm)とその木の重さ(kg)

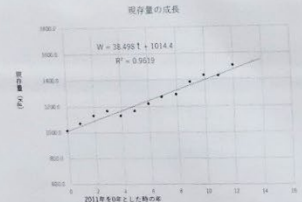


例
 : 直径10cmの樹木の場合
 Dを直径 (cm)、Wを重さ (kg)とすると:
 $W = 0.14 \times (10)^{2.4}$
 $W = 35.16 \text{ kg}$
 乾燥重量: 生木を85°Cの熱風で2時間乾燥した重量

※1 コナラの幹の断面積は直径 (D) の2乗に比例 (断面積 = π × (D/2)²) のため、Dを直径 (cm)、Wを重さ (kg)とすると、断面積は幹の直径より1.25倍の重さとなる。

上田市伊勢山のコナラ林の成長


現存量の成長




里山の炭酸ガスの吸収量

- 1. 10m x 10mの面積内のコナラ林は年間38 kgの樹木成長がある。その内約47%が炭素なので38 x 0.47=16.72kgの炭素となる。
- 2. 炭酸ガスにすると16.72 x 3.75=62.7kgとなる。10 m x 10mのコナラ林は1年間に62.7kgの炭酸ガスを吸収している。
- 3. 樹木は1g燃すと約4kcalのエネルギーを出すので林全体として38x 4で152Mcalのエネルギーをもっている。


伊勢山コナラ林の成長(2011年から2021年)



ゼーバック発電機による発電

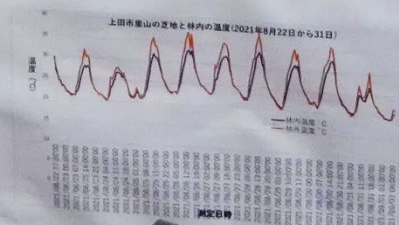


上田市での林内と芝地の気温を測定した場所



上田市での林内と芝地の気温比較

上田市里山の芝地と林内の温度(2021年8月22日から31日)



4. 信州水環境マップ・ネットワーク 沼田 清

一般市民を対象に年に一回の全国一斉水質調査が行われています。そのうちの長野県内の調査地点をマップ化したものを紹介します。

2021 長野県水環境マップ

水質調査(CODパケットテスト)に参加してみませんか?

信州水環境マップネットワーク

左のマップは本年6月に実施された全国一斉の水質調査(長野県内)の調査結果であります。水の汚れをそこに棲む生き物と比較しよう(^^)

イワナ・ヤマメ アユ・ウグイ コイ・フナ

ブルーミ見つけ！！ バックテスト体験 ブラックバス発見
ザリガニ見つけ！！ ウグイの放流とガサガサ体験 ブラックバス発見
8月9日付の信濃毎日新聞の「手曲川はいま」に
長野大農経学部教授沼田清氏も書かれています。 記念撮影・全員集合

川の健康状態を見るのは私たち研究者だけでなく、川に関わっている人も含めた川の周辺に住む人たち全てである。川を毎日見ている人の感性は特に大切である。川の様子を目で見て、せせらぎの音を耳で聴いて、水においを鼻で嗅ぐ。水や石、藻類などに触れてみる。川の恵みである魚などを味わう。多くの人が五感を活用しながら川を見ていることが、自然の出す小さな危険信号やメッセージを察知とさないことにつながる。流域にすむ人が関心を持って平常時の川をよく観察することが、これからはますます大切である。(執筆者の許可を得て信濃毎日新聞記事より引用)

6. うえだ環境市民会議 (SDGsプロジェクトチーム) 新田 詔三

SDGsは「だれ一人取り残さない」幸せな世界にするための国際目標です。その為に、誰もが知恵を出し合い、個人的な目標も達成して、調和のとれた共々に喜び合える地域・世界にしましょう。

7. うえだ環境市民会議 (自然エネルギーシフトPT)

新田 詔三・竹内 秀夫・村山 顕

次世代にとって負の遺産とならないように持続可能な自然エネルギーへの転換を推進し、特に原発の抱える問題について考え、市民への啓発活動を実施しています。具体的には、2019年の世界と日本の原発の動向、2021年の福島第一原発の汚染水の現状、福島第一原発廃炉の遅れを取り上げました。

福島第1原発の現状

処理水 迫られる決断

増え続ける処理水容量限界付近

海洋放出提言内外から懸念

強すぎる放射線量

福島第一原発処理のおくれは原子炉内へのデブリ(核残物)が取り出せないから。

高リスクの使用済み燃料 搬出遅れ

世界の原発・再処理施設 トリチウムを海へ放出

福島第一原発の現状

世界の主な原子力施設からのトリチウムの年間放出量

世界の原発・再処理施設 トリチウムを海へ放出

福島第一原発の現状

高リスクの使用済み燃料 搬出遅れ

福島第一原発はどうかっているか？

事故から11年目の今、東京電力が予定していた2040年の目標はちととして進んでいない。放射能

8. 長野大学市川ゼミ 市川文彦研究室ゼミ生

今春 4 月に生まれたばかりの、地球環境向上を目指す<グリーン・ネットワーク>創りを検討している研究グループです。



9. 長野県発明研究会上田支部 荻原 静夫

知的財産権に関心を持つ発想力豊かな研究開発学習機関で、会員相互に協力し、社会に役立つ作品を創造することで、社会に貢献します。



10. うえだ環境市民会議(ごみ減PT) 大内 薫

上田市で呼び掛けている家庭ごみの減量活動に共鳴し、家庭ごみの肥料化・堆肥化に取り組んでいます。学習会をはじめとする定期的な活動も行っており、興味のある方の参加をお待ちしております。

